

季節の変化と
日常の中の
発見日常をフラットな
視点で見直すこと

秋の訪れ

夏の暑さもすっかりやわらぎ過ぎやすい季節となってきました。夕方になると日が落ちるのもずいぶん早くなり、本格的な秋の訪れを感じる今日この頃です。過ごしやすく、穏やかな気候の秋は、私自身もとても好きな季節です。食欲、スポーツ、読書、芸術など、秋という季節には多くの言葉が冠されます。皆さんはどのような秋を満喫されているのでしょうか。

日本の季節の捉え方

先日、読書の秋を愉しもうと書店へ行ったところ、興味深い本を一冊見つけました。「日本の七十二候を楽しむ」というタイトルその本には「七十二候」という聞き慣れない季節の分け方が載っていました。
春夏秋冬は「四季」。四季を立春や夏至、**秋分や冬至**などで

分けたものを「二十四節季」。そして「二十四節季」を更に約5日ずつの3つに、計72に分けたものを「七十二候」と呼ぶそうです。例えば、11月2日頃のことを七十二候では「楓蔦黄」もみじつたきばむ」と呼び、もみじや蔦が黄葉する様子を表しています。

5日毎に季節の移り変わりを表すというのは、日本人特有の感覚のように思います。わが国の文化の多様性には四季の細かな変化などに「気付く」ことができる日本人の豊かな感受性が少なからず影響しているように感じました。

日常の中にある発見

日々の生活の中の、こういった小さな事柄に気付くことは我々デザイナーにとっても、とても大切なことです。普段なら見過ごしてしまう小さな変化や、何の変哲も無い日常の中にこそ、アイデアやヒントが隠されています。私の場合、デザインをしていて色使いに悩んだ際、四季の色彩を参考にすることが多々あります。先日ロケ先で一面に広がる稲穂を見た時、美しい景色だと思つと同時に、青く澄んだ空が、稲穂の黄色を更に映えるものになっていることに気付きました。

た。ありふれた風景の中に、デザインをしていく上での配色のヒントを得ることができました。日常の中で見慣れたもの、その中にある先入観のようなものを取り払うと思わぬ発見があり、その時に得た着想や驚きは私たちの生活をより豊かにしてくれます。

とはいえ、私自身いつも新鮮な気持ちを保って過ごせているかという疑問が残るところです。日々の生活に追われるうちに、日常に対し鈍感になってしまつこともあります。日々を何となく過ごしてしまわず、心に余裕を持ち、ものごとをフラットな視点で捉えたいものです。秋の訪れを感じるこの頃、発見は新しいものだけではなく、日常にも潜んでいるということをも、改めて学んだ気がしました。

実りの季節

「秋深き隣は何を する人ぞ 寂寥感のある芭蕉のこの句は、普段なら気に留めないようなところに人恋しさを感じとった、秋ならではの美しい一句だと思えます。これから木々は紅葉を始め、益々美しい季節となります。いろいろなものを吸収し、実りある季節になるよう、日々を過ごしていきたいと思います。」

(企画制作部 加藤悱也)

行政・中小企業向け

文化メディアワークス

自社スタッフが
講師です！

現場のプロを派遣！ 029(221)4813

ビジネスセミナー・研修・講座

「デザイン × 教育」
二つのスキルで
お客さまのお役に立ちます。

●デザイン 企画立案からデザインまでワンストップでプロデュース！

企業のブランディングから、商品開発、農産物直売所POPや売場レイアウト、ツール制作など少人数から受け付けています。
(茨城県・栃木県・各種団体等の実績あり)

●教育 各種プロスタッフやキャリアコンサルタントが丁寧に指導！

ビジネスセミナーや接客接客、PCスキル(Microsoft Office、デザイン系ソフト)社内広報、その他ビジネススキル、PCリテラシーまで幅広くお応えします。